

適正配置の取組状況と検証

旭川市立小・中学校適正配置計画第2期を振り返って



旭川市立小・中学校適正配置計画は、計画期間を平成27年度から令和11年度までの15年間とし、5年ごとの3期に区切り、進捗状況などを踏まえ、検証・見直しの機会を設けることとしている。

令和6年度で第2期が終了することから、これまでの取組状況の検証を行う。

第1期	第2期	第3期
平成27年度～令和元年度	令和2年度～令和6年度	令和7年度～令和12年度

1 適正配置の進捗

- 1-1 統廃合
- 1-2 通学区域の見直し

1 - 1 統廃合		第 1 期		第 2 期		第 3 期
		対象校	統合日	対象校	統合日	対象校
第 1 期	・ 1 1 校中, 完了は 4 校	1 聖和小	平成28年4月1日			
		2 千代ヶ岡小	平成31年4月1日			
		3 旭川第 2 小	令和2年4月1日			
		4 旭川第 2 中	令和2年4月1日			
第 2 期	・ 1 2 校中, 完了は 3 校 ・ R5.4.1 旭川第 1 小学校 (旭川小学校へ統合) ・ R7.4.1 嵐山小学校 (忠和小学校へ統合) ・ R7.4.1 嵐山中学校 (忠和中学校へ統合)	5 旭川第 1 小	→	1 旭川第 1 小	令和5年4月1日	
		6 嵐山小	→	2 嵐山小	令和7年4月1日	
		7 嵐山中	→	3 嵐山中	令和7年4月1日	
		8 雨紛小	→	4 雨紛小		
		9 台場小	→	5 台場小		
		10 江丹別小	→	6 江丹別小		
		11 江丹別中	→	7 江丹別中		
				8 日章小		
				9 正和小		
				10 永山東小		
				11 大町小		
				12 近文第 2 小		
						1 啓北中

1 - 2 通学区域の見直し

第 1 期

・ 8 校中, 完了は 5 校

第 2 期

・ 4 校中, 完了は 3 校

R3.4.1 旭川小学校

R3.4.1 旭川第 5 小学校

R6.4.1 朝日小学校

進学先中学校が分かる状況を解消

第 1 期		第 2 期		第 3 期
対象校	変更日	対象校	変更日	対象校
1 東栄小	平成30年4月1日			
2 啓明小	平成31年4月1日			
3 旭川第 3 小	令和2年4月1日			
4 東光小	令和2年4月1日			
5 共栄小	令和2年4月1日			
6 旭川小	→	1 旭川小	令和3年4月1日	1 愛宕小
7 旭川第 5 小	→	2 旭川第 5 小	令和3年4月1日	2 愛宕東小
8 朝日小	→	3 朝日小	令和6年4月1日	3 永山西小
		4 正和小		4 大有小
				5 北光小
				6 春光小

進学先中学校が分かる状況を解消

2 検証

2-1 第2期で統廃合した学校の状況

※児童生徒数，学級数は閉校年度の5月1日現在

(1) 旭川第1小学校（R5. 4. 1統廃合）

全児童数（学級数） （R4.5.1現在）		4人（2学級）	R3年度は児童数3人，教員数2人（校長1，教員1） R4年度に1人転入児童数4人，教員数3人（校長1，教員2）
うち通常学級	4人（2学級）		
うち特別支援学級	0人（0学級）		
経過	【R3年度】現5年生が卒業するR5年度には在校生が1人となり，その後その状態が継続することから，R4年度末での統廃合について保護者と協議を行い，理解を得られたことから地域に対して統廃合についてのアンケートを実施。アンケート結果は，統廃合してよい，やむを得ないという意見が大半で，反対意見は81件中4件であった。 【R4年度】アンケート結果を地域説明会で説明し意見聴取した結果，統廃合への反対意見がなかったことから，保護者や地域，同窓会とR4年度末での統廃合について合意し，統廃合を決定。		
統廃合についての意見	【保護者】・統廃合してよいが，通学支援は充実してほしい。 ・児童数減少により統廃合となることは理解する。 【地域】・児童数が少なすぎる，統廃合はやむを得ない。もっと早く統廃合してもよかった。 ・学校を残したいが，児童や先生のことを考えると限界がある。 ・児童数だけで統廃合の話をするのは理解できない。		
統廃合後の感想	【児童】・新しい学校では行事を楽しみにしていた（旭川第1小では数人で実施） ・友達がたくさんできてよかった。 【保護者】・これまで行事は一人一人役目があったが，目立たなくなった。 ・これまでのマンツーマンでの学習ではなくなり，授業が難しくなった。		

(2) 嵐山小中学校（R7. 4. 1 統廃合予定）

小学校・中学校計（R6.5.1現在）			小学校		中学校	
児童生徒数（学級数）			2人	（2学級）	3人	（2学級）
うち通常学級			0人	（0学級）	2人	（1学級）
うち特別支援学級			2人	（2学級）	1人	（1学級）

経過	【R4年度】 ・小中学校の在校生のうち、地域に居住する子どもは中学生の1人であり、そのほかの児童生徒は就学学校を変更して通学。令和7年度には地域から通学する児童生徒がいなくなることから、保護者に統廃合について意向を確認。 【R5～6年度】 ・地域意向を確認するため、全戸にアンケートを実施。回答のあった意見のほとんどが「統廃合してもよい、やむを得ない」であり、統廃合に反対する意見は全体の3%であったことから、保護者や同窓会の理解を得て、統廃合とすることを決定。 ・地域から一部反対意見もあったが、地域説明会でアンケート結果を説明及び、令和6年度末での統廃合を説明し、理解を得た。
	統廃合についての意見 【保護者】・統廃合については理解する。 【地域】・学校がなくなるのは寂しいが統廃合には賛成。 ・子どもにとっては大きな学校で頑張ることも良いと思う。 ・校区外から児童生徒を受け入れる特別な学校としての存続を希望する。 ・学校がなくなると過疎化が進む、学校の存続は地域振興の核として必要。

2 検証

2-2 第2期で統廃合していない学校の状況

※児童生徒数、学級数は令和6年5月1日現在
※各学校のグラフは、通常学級の児童生徒数、学級数（令和11年度は推計値）

(1) 日章小学校

全児童数（学級数）	42人（7学級）
うち通常学級	38人（4学級）
うち特別支援学級	4人（3学級）

R6学級編制（通常学級）	1・2年複式 3・4年複式 5年単式 6年単式
--------------	----------------------------

第2期において把握した状況

・教員からの手厚い支援を求める保護者が、児童数の少ない環境を重視し校区内に転居するケースがある。

R6.2実施
保護者アンケートの主な意見

よいと感じていること

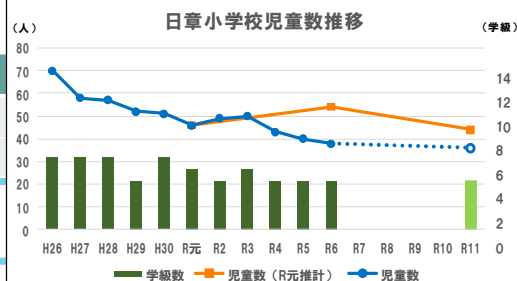
☐行事では皆が主役で、積極的な姿勢である。
☐人数が少ないので、学年関係なく皆の仲が良く、先生方の目がとても行き届いている。

心配に感じていること

☐狭い人間関係のため、中学校になった際、クラスで馴染めるのか不安。

統廃合を進める上での課題

・過去に地域から統廃合に反対する要望書が提出されており、根強い反対意見がある。



(2) 正和小学校

全児童数（学級数）	52人（7学級）
うち通常学級	48人（5学級）
うち特別支援学級	4人（1学級）

R6学級編制（通常学級）	1年～4年単式 5・6年複式
--------------	-------------------

第2期において把握した状況

・在籍児童の7割が永山南中学校区に居住しており、永山南小学校へ変更して入学するケースがある。
・令和3年度実施の保護者アンケートにおいて、「統廃合された場合、通学時の安全面が不安」という意見があった。

R6.2実施
保護者アンケートの主な意見

よいと感じていること

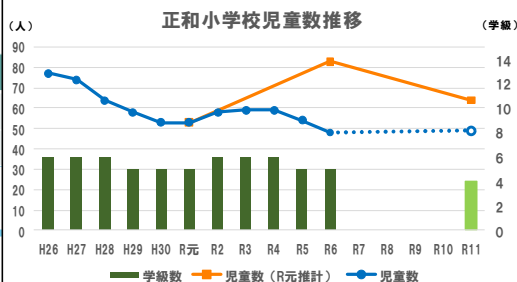
☐人数は少ないが、友人関係も良好で学習面でも先生の目が行き届いている。
☐参観日や発表会など、クラス全員が活躍できる場がきちんとある。

心配に感じていること

☐何かトラブルがあったときにクラス替えがないこと。
☐統廃合により学校が遠くなり、登下校が大変になること。

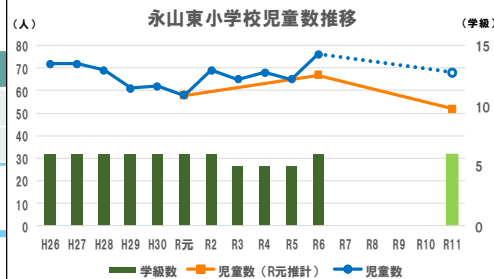
統廃合を進める上での課題

・進学先中学校が明星中学校と永山南中学校に分かれているため、統廃合に当たっては、通学区域の見直しを合わせて検討する。
・統廃合となった場合の通学時の安全について、保護者の理解が必要である。



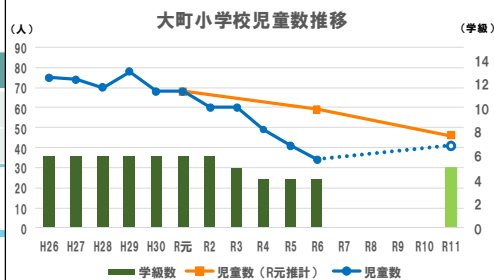
(3) 永山東小学校

全児童数（学級数）	89人（9学級）
うち通常学級	76人（6学級）
うち特別支援学級	13人（3学級）
R6学級編制（通常学級）	全学年単式 ※R3～5は複式あり
第2期において把握した状況	・第2期統廃合対象校で唯一、令和6年度の児童数が令和元年度推計値を上回り増加している。 令和元年度推計値 通常学級67人、6学級 令和6年度 通常学級76人、6学級
R6.2実施保護者アンケートの主な意見	よいと感じていること □人数が少ないため、学習面にも、子どもの困りごとにも、先生の目が行き届いている。 □学年関係なく皆仲良くなれる。 心配に感じていること □児童数が少なくクラス替えがないため、仲が悪くなくても抜け出せない。 □統廃合になると、家から遠くなり通学に時間がかかる。
統廃合を進める上での課題	・児童数は100人以下で推移する見込みだが、令和6年度から全学年単式学級となり、今後も継続する見込みのため、学校、保護者ともに困り感はみられない。



(4) 大町小学校

全児童数（学級数）	45人（7学級）
うち通常学級	34人（4学級）
うち特別支援学級	11人（3学級）
R6学級編制（通常学級）	1年単式 2年単式 3・4年複式 5・6年複式
第2期において把握した状況	・「大町っ子増員計画」というPTA活動により、学校の良さをPR。
R6.2実施保護者アンケートの主な意見	よいと感じていること □他の学年とも縦割り活動により交流が深く、上級生が下級生を導く姿が良い。 □学習面でも友人関係でも人数が少ないことにより、先生の目が行き届いている。 □行事では役割が多いので責任感から自主性が高くなっている。 心配に感じていること □複式学級になった際の授業。 □PTA役員を保護者全員やらなくてはならないこと。 □子どもが少ないので中学進学後、大人数に馴染めるか。
統廃合を進める上での課題	・PTAでリーフレットを作成し学校の良さを地域などにPRするなど、保護者は統廃合に反対する活動を行っている。



(5) 近文第2小学校

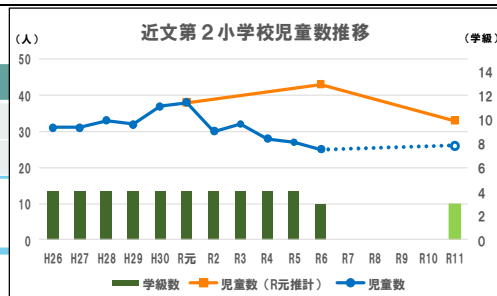
全児童数（学級数）	28人（5学級）
うち通常学級	25人（3学級）
うち特別支援学級	3人（2学級）

R6学級編制（通常学級）	1・2年複式 3・4年複式 5・6年複式
--------------	-------------------------

第2期において把握した状況	・過去に閉校した近文第3小学校及び近文第4小学校の統合先校であり、通学区域が広大となっているため、更に通学距離が遠くなることに反対する保護者の意見がある。
---------------	---

R6.2実施保護者アンケートの主な意見	よいと感じていること	☐ 人数が少ないため、先生の目が行き届いている。 ☐ 他の学年とも交流がたくさんあり、良い刺激になる。
	心配に感じていること	☐ 既に通学距離が長く、これ以上通学時間が伸びることは、学習面、健康面で負担が大きい。 ☐ 中学校に進学してから馴染めるか。

統廃合を進める上での課題	・統廃合により通学距離が延びることについて、保護者の理解を得る必要がある。
--------------	---------------------------------------



(6) 雨紛小学校

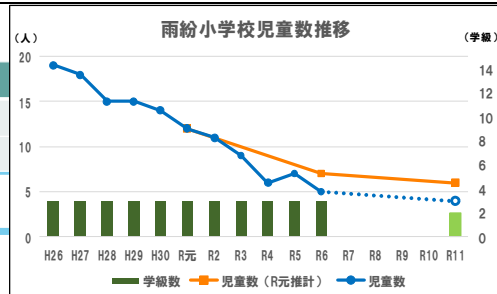
全児童数（学級数）	7人（5学級）
うち通常学級	5人（3学級）
うち特別支援学級	2人（2学級）

R6学級編制（通常学級）	1・2年複式 4年単式 5・6年複式
--------------	-----------------------

第2期において把握した状況	・R3年度の保護者との意見交換において、統廃合反対の意見が強くPTAとして反対意向が示された。 ・小規模校を希望する保護者の子が、就学学校を変更して入学するケースがある。 ・移住者や転入者が多く、地域としては強い存続の意向はみられない。
---------------	--

R6.2実施保護者アンケートの主な意見	よいと感じていること	☐ 人数が少ないため、子どもに合わせた指導が行われている。 ☐ 人数が少ないため、自分がやるという意識が芽生え、自分から動けるようになった。
	心配に感じていること	☐ 進学の際に友人関係が構築しにくいのではと懸念される。 ☐ 同じ学年の友達と多く触れ合い、様々な考え方や価値観に触れる機会が限定される。

統廃合を進める上での課題	・今後欠学年が生じる年度があり、養護教諭や事務職員が配置されなくなる見込みである。児童数の減少に応じて教職員数が減少するが、学校維持管理業務は減らずに学校の負担が増大するため、保護者の理解を得る必要がある。
--------------	---



(7) 台場小学校

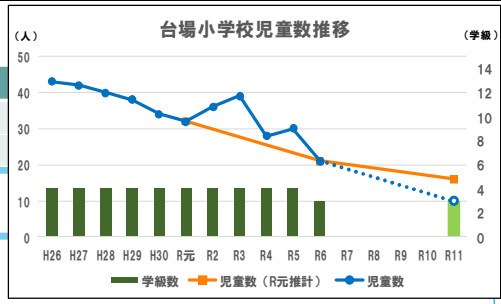
全児童数（学級数）	38人（7学級）
うち通常学級	21人（3学級）
うち特別支援学級	17人（4学級）

R6学級編制（通常学級）	1・2年複式 5・6年複式	3・4年単式
--------------	------------------	--------

第2期において把握した状況	・全児童の約半数が近隣の児童養護施設から通学している。 ・特別な支援を必要とする児童もいることから、当該施設に近接する小規模校である意義は大きい。	
---------------	---	--

R6.2実施 保護者アンケートの主な意見	よいと感じていること	☐ 人数が少ないため、先生方が手厚い対応をしてくれている。 ☐ 人数が少ないため、色々な学年との交流ができています。
	心配に感じていること	☐ 社会生活や集団生活に対しての学びの環境が不足している。 ☐ 学校までの距離が遠く、子どもの足で通うことが難しくなる。

統廃合を進める上での課題	・対人関係構築の困難さから、規模の大きい統合先校（神居小学校、327人）や、通学支援車両への適応が難しいことも考えられる。 ・現在1～4年の養護施設児童には、登校時施設職員が同行しているが、通学支援車両による通学となった場合、施設職員が同乗できず登校支援が困難になる。	
--------------	--	--



(8) 江丹別小中学校

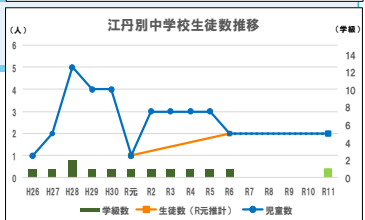
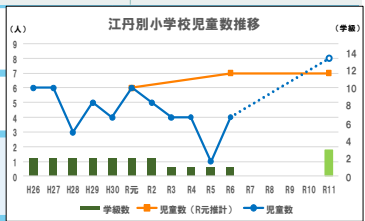
小学校・中学校計	小学校	中学校
全児童生徒数（学級数）	8人（3学級）	2人（1学級）
うち通常学級	6人（2学級）	2人（1学級）
うち特別支援学級	2人（1学級）	0人（0学級）

R6学級編制（通常学級）	小学校 1・6年複式 中学校 2年単式
--------------	------------------------

第2期において把握した状況	・令和7年度は入学予定者がいないが、それ以降は欠学年が生じない見込み。
---------------	-------------------------------------

R6.2実施 保護者アンケートの主な意見	よいと感じていること	☐ 一人一人に合わせた授業を行っている。 ☐ 学習面では基礎からしっかりと教えてくれている。
	心配に感じていること	☐ 同級生がおらず、かわいそうに感じた。 ☐ 統廃合となる不安がある。

統廃合を進める上での課題	・地域拠点校だが、欠学年が生じているため統廃合対象校となっている。 ・令和7年度から嵐山小中が忠和小・忠和中に統合された後は江丹別地域の学校は江丹別小中のみ。 ・統廃合の際は通学距離が長くなり、通学の負担が大きくなる。	
--------------	---	--



3 検証結果

適正配置は保護者、地域との合意を前提に進める方針であり、対象校の保護者や地域住民の意向を尊重してきた。これまで統廃合となった学校は、保護者から閉校の要望を受けたり、地域の児童生徒がごく少数となってから、保護者や地域の理解を得て統廃合している。

適正配置の進め方の課題

保護者に関する課題

- 毎年実施している保護者アンケートでは、過小規模を「きめ細かい望ましい規模」とする保護者の意見が多く、複式学級のデメリットが問題と捉えられていない。
- 教育環境よりも統廃合による環境の変化を避け、「子どもが在籍する間は統廃合しないでほしい」という意見となる傾向にある。

地域に関する課題

- 「学校がなくなると地域が衰退する」など、地域振興の観点からの意見となる傾向もあり、教育環境の視点での議論が必要である。

保護者・地域に共通する課題

- 人数が少ないほど個々の意見が強調されやすく、統廃合を希望する声を挙げにくい状況となっている。
- 教職員の減少により生じる学校運営面の負担や、集団教育活動における制約が、保護者や地域に伝わりにくく、学校運営や教育環境の視点での議論が必要である。

個別学校の課題

- 台場小学校について、児童養護施設近隣校であることを踏まえた検討が必要である。
- 江丹別小学校・江丹別中学校について、嵐山小学校、嵐山中学校の統廃合により、地域の小中学校が同校のみとなること及び通学距離を踏まえた検討が必要である。